





牛形屋の

いよ〜園

干草

陶東長溪

瓶齋

漢英文庫

牛形屋





葎

藤

葉

洛

里卜

花

咲



紅梅

梅

湖東長濱女

加葉



火繩火此

散て死

花薔濁

一浮

東武永我庵



積心

稿

驚

能此

留

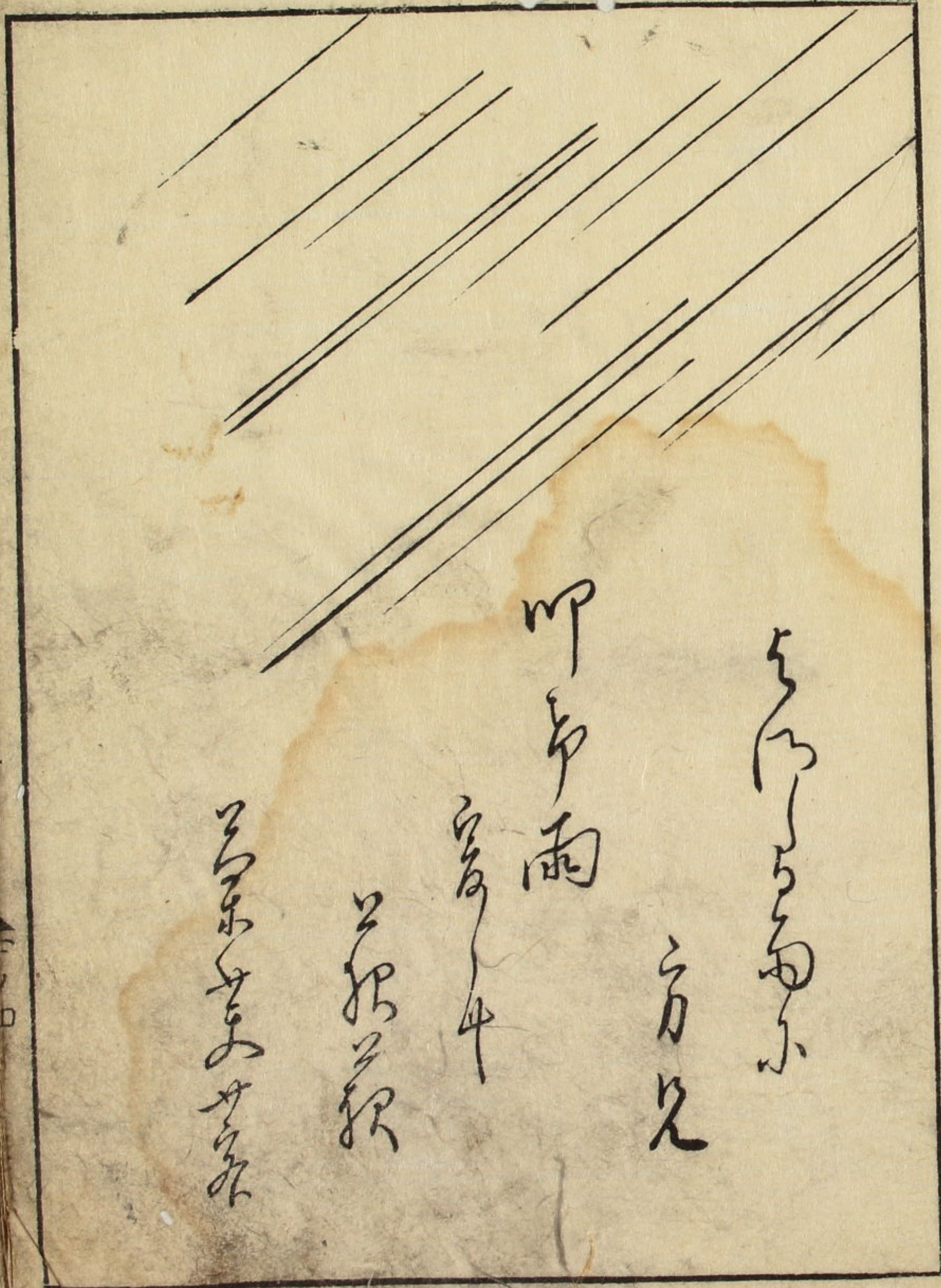
秋田溪

東





口

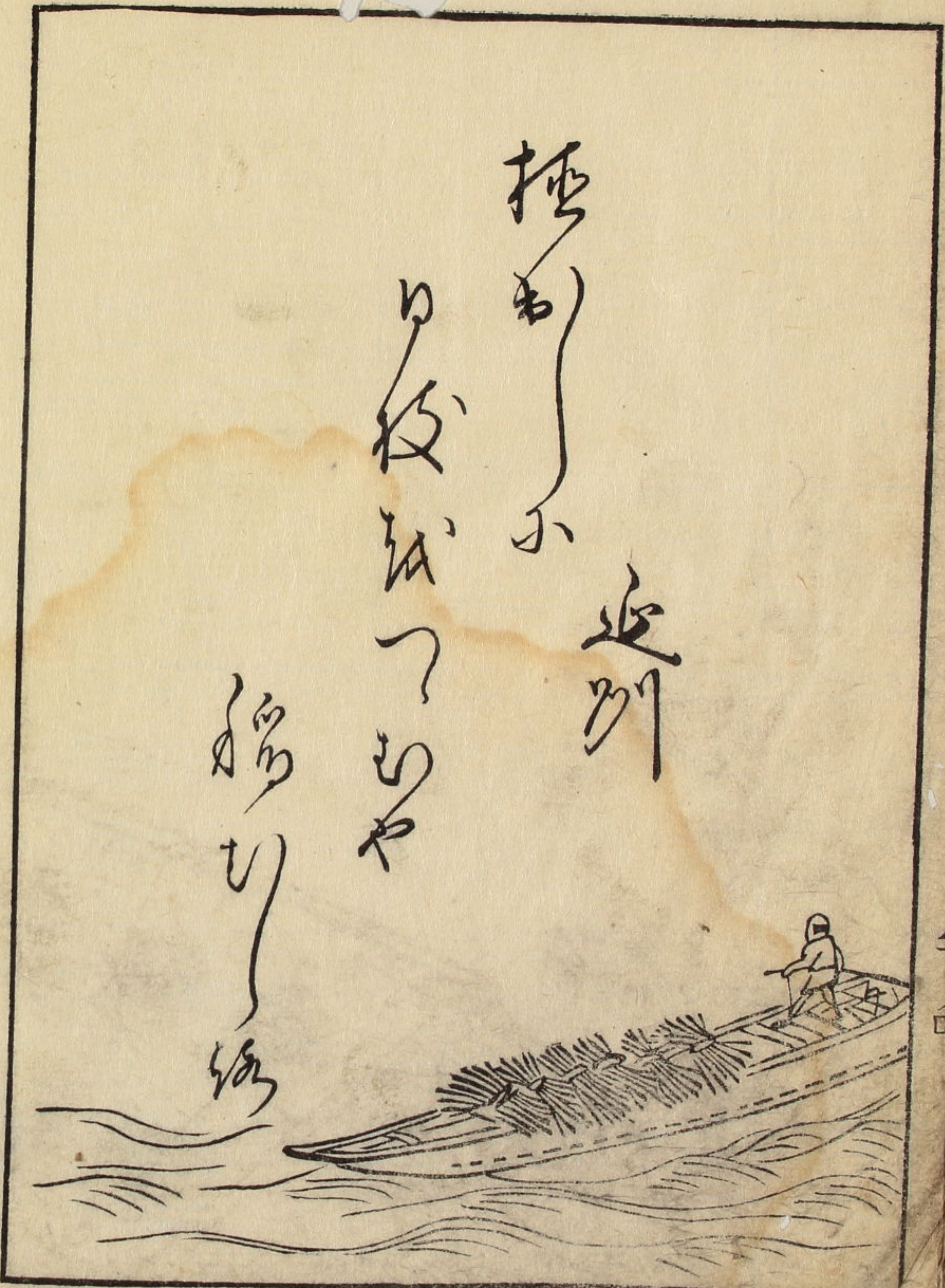






子孫

〇んんわ4  
 〇んんわ4  
 〇んんわ4



近別

極制  
 〇んんわ4  
 〇んんわ4  
 〇んんわ4





一  
ハ  
カ

あ  
な  
ん

か  
の  
ま  
ま

あ  
な  
ん

昆  
湯  
里  
本  
館  
白  
屋

白  
屋



梅  
あ  
な  
ん

増  
れ

あ  
な  
ん

あ  
な  
ん

あ  
な  
ん

播  
州  
娘  
府  
不  
滞  
園

純  
粋



自  
画



猿  
沢の

名紙

自画

少々

吉野市

山形和輔

山形和輔



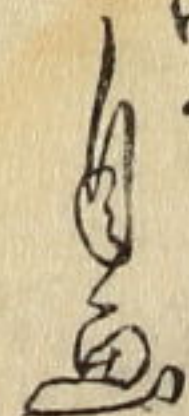
もく  
云々

一人  
者

桑山  
子

日山寺  
軒

鳴











異心之月也

如月也

熊野木元

吳鳥

陣扇



約脊巾

羊瓢舎

子周

共脚

考

爪

之山

熊野木元

川瀬白画





鳴子へ  
 舟と出ぬれ  
 本多外  
 有馬  
 三徳



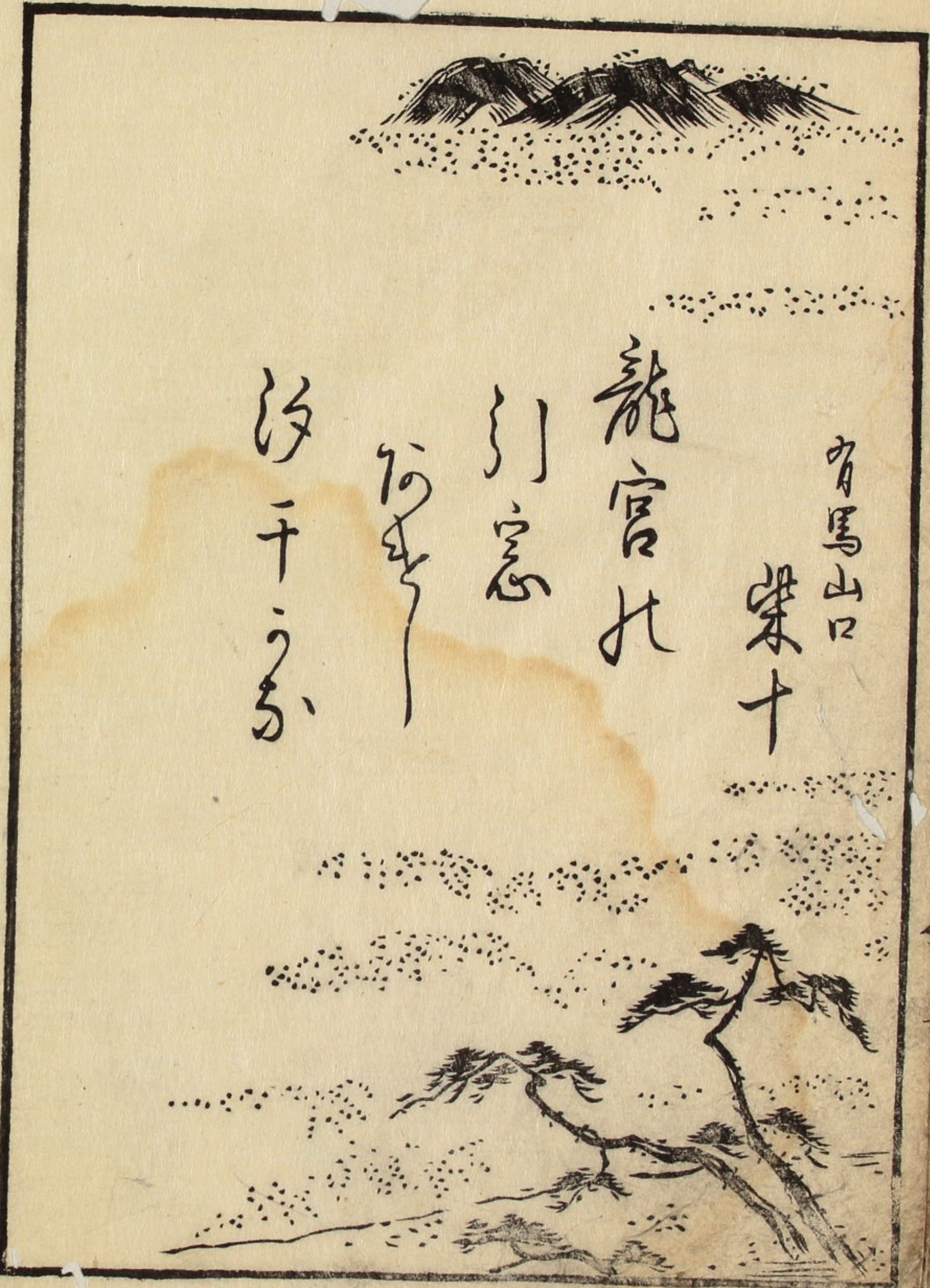
時をたけり  
 鉄砲丸  
 けさや  
 三日  
 の海

雷茶





柴谷青水  
 の  
 風  
 品  
 玉  
 此  
 程  
 も  
 あ  
 る



有馬山口  
 柴十  
 龍宮丸  
 引定  
 阿  
 波  
 干  
 う  
 家



又月未はより  
 病は依て悩む  
 久し老病を  
 免るるよし  
 ふ心候は候氣と

ゆき



三つ花は

齡や 菊の池

兵庫

芦月

兵庫  
 蘆洲

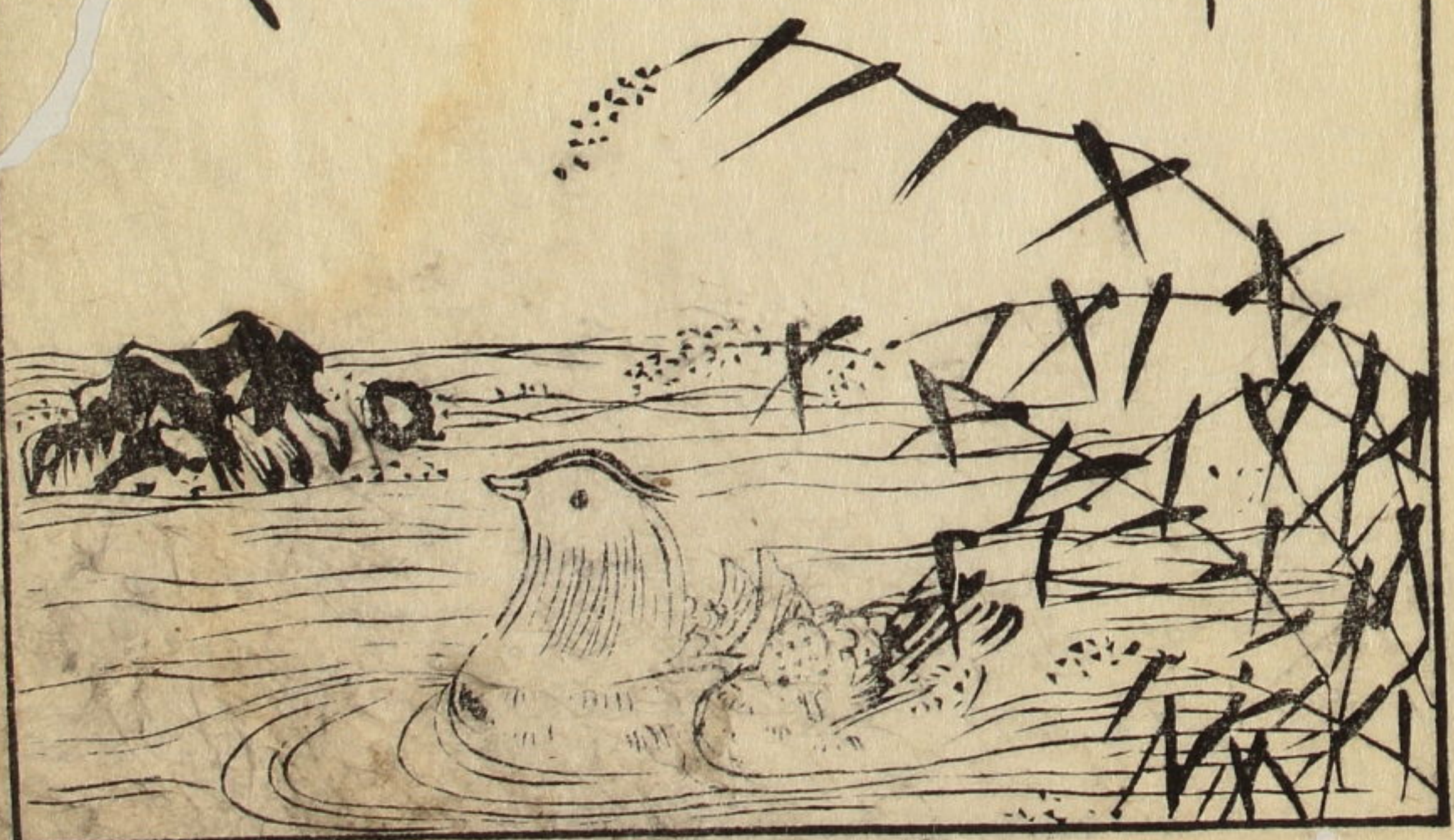
水香や

揺る

ふハ

里は

う







いりまて毛

人よ

飽みの

さくす

兵庫

之林兄

已のうき

まのや

源のた

竹の

庭



兵庫

44乙



咲花れ

夕月や

樹の

はなを

兵庫麦飯改

木羽



日よ

あつて

志ろき齒

見せん

名花

兵庫津

鳳兮







伊豆の山  
 伊豆の山  
 伊豆の山  
 伊豆の山

石丈庵

求花

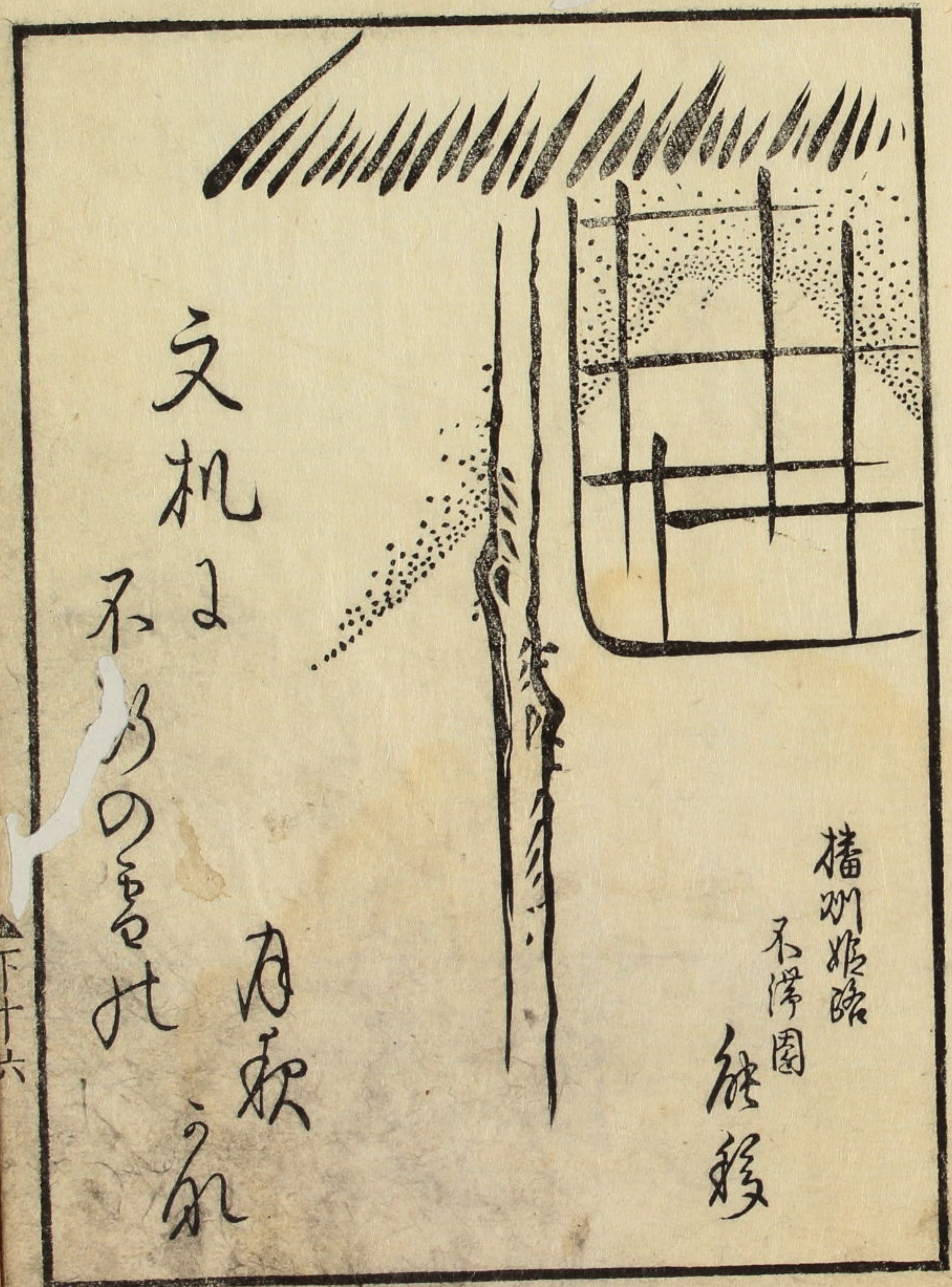


手に  
 手に  
 手に  
 手に

兵庫  
 祠合







文机

不乃の書

有秋

の

播州娘路

不滞園

能移



白露

お新れよ

世の音

播州娘路

丹頂堂

寒爪





白雨

富士の  
あふれの

晴

水州海老村

西湖月画



榮花のまろく哉  
控うしれあを

月下梯



涅槃

香や

佛の

なり

初

文風



孟蘭盆や

さうめん

地獄の

谷

此

下



椿阿自画





花のつぼみ

運子花の形

笠置の花

平野

都紫



卯丸

花中

うねの

音

うね

都賀

竹比







高裏

一際

安子

中

〜



百泉

阿波徳島

初嵐

〜の

後此

中

流新



南湖

阿波徳島



阿波徳橋

古角

沢船中

討り

さげの

平家

方



阿波徳橋

雲哉

獨力麻ハ

虎り

知りぬ

定さうね







故御の  
 此馬の  
 可也  
 遊  
 灘  
 任  
 極  
 苦  
 譚  
 水  
 千  
 函

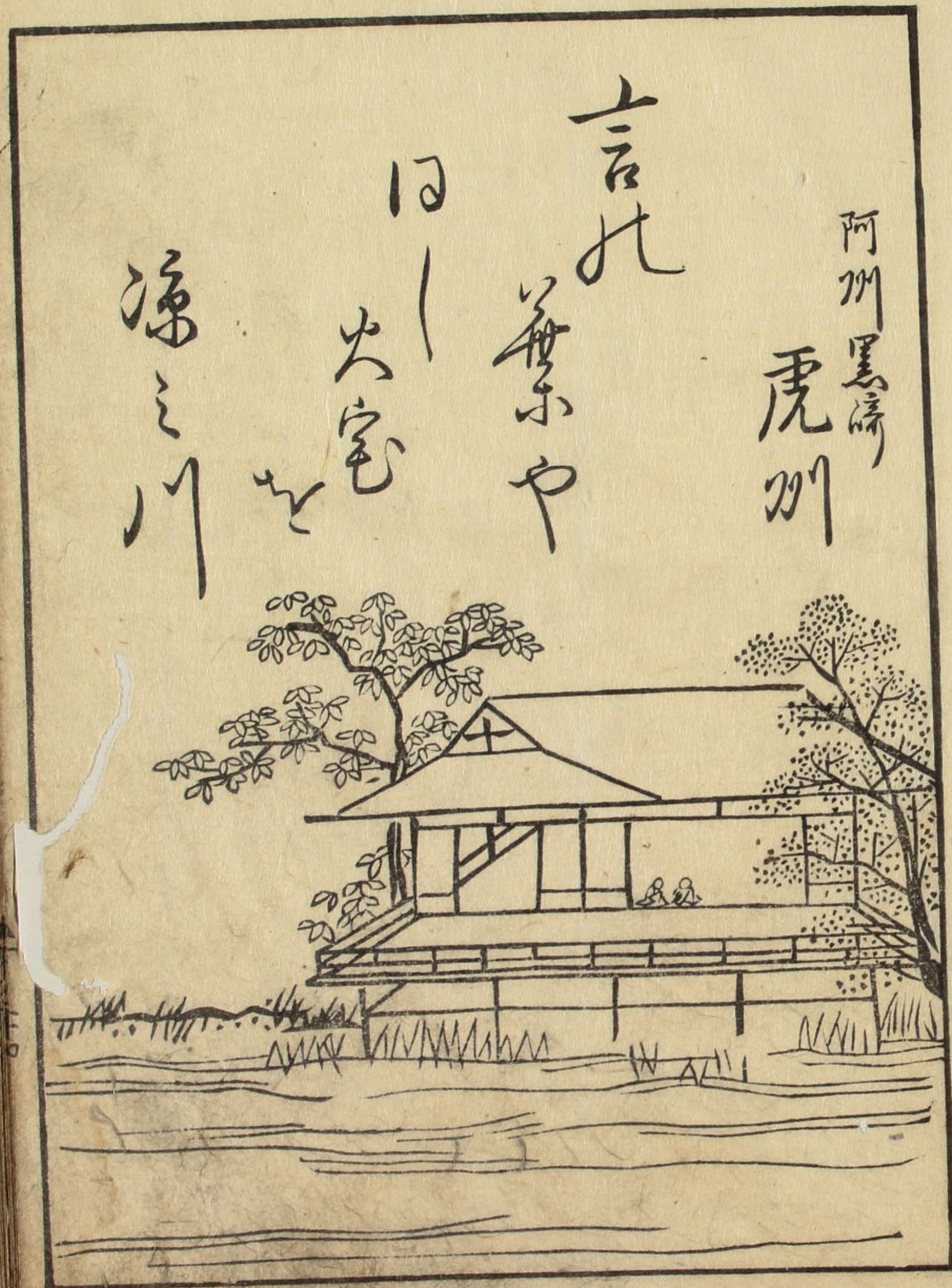
譚水千函



志  
 之  
 家  
 之  
 府  
 之  
 行  
 之  
 如

春  
 梅  
 洞





阿州黒崎  
 虎洲  
 言此  
 日一  
 大宅  
 孫之川



主持の  
 我々  
 孫儀  
 言此



世人柳石場と唱ふるあり元龜年中  
 播州画島の庄よりけね波津より移り  
 せり今此とありけり小境内二十余方  
 佛殿及び七堂草庵を築けり寺前より  
 石舎池あり池の邊りに柳樹一株ありけ  
 りけり正号と云は世傳をなせり今に  
 至り百八十余年也然して昔も此兵  
 乱より一宇も跡より焼失しぬ泰平此  
 時を待得て今此如く草庵を中真  
 寺とありけり今月紀又法眼宗典

百回忌ありは是れ一原に追福一平

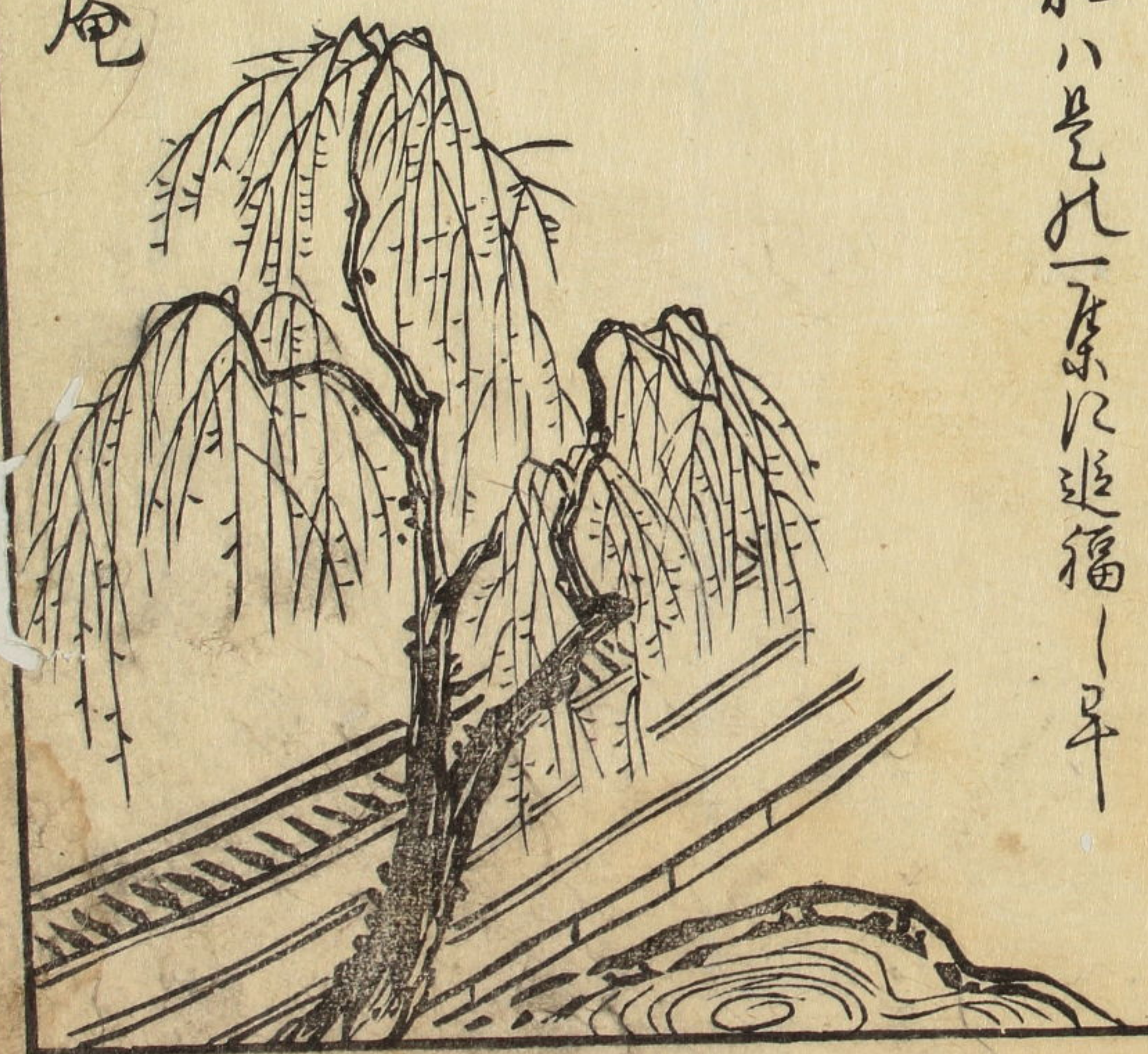
堂々  
 とあり

風茂

草ありや

心亭柳

故柳庵



百五





宇治橋や

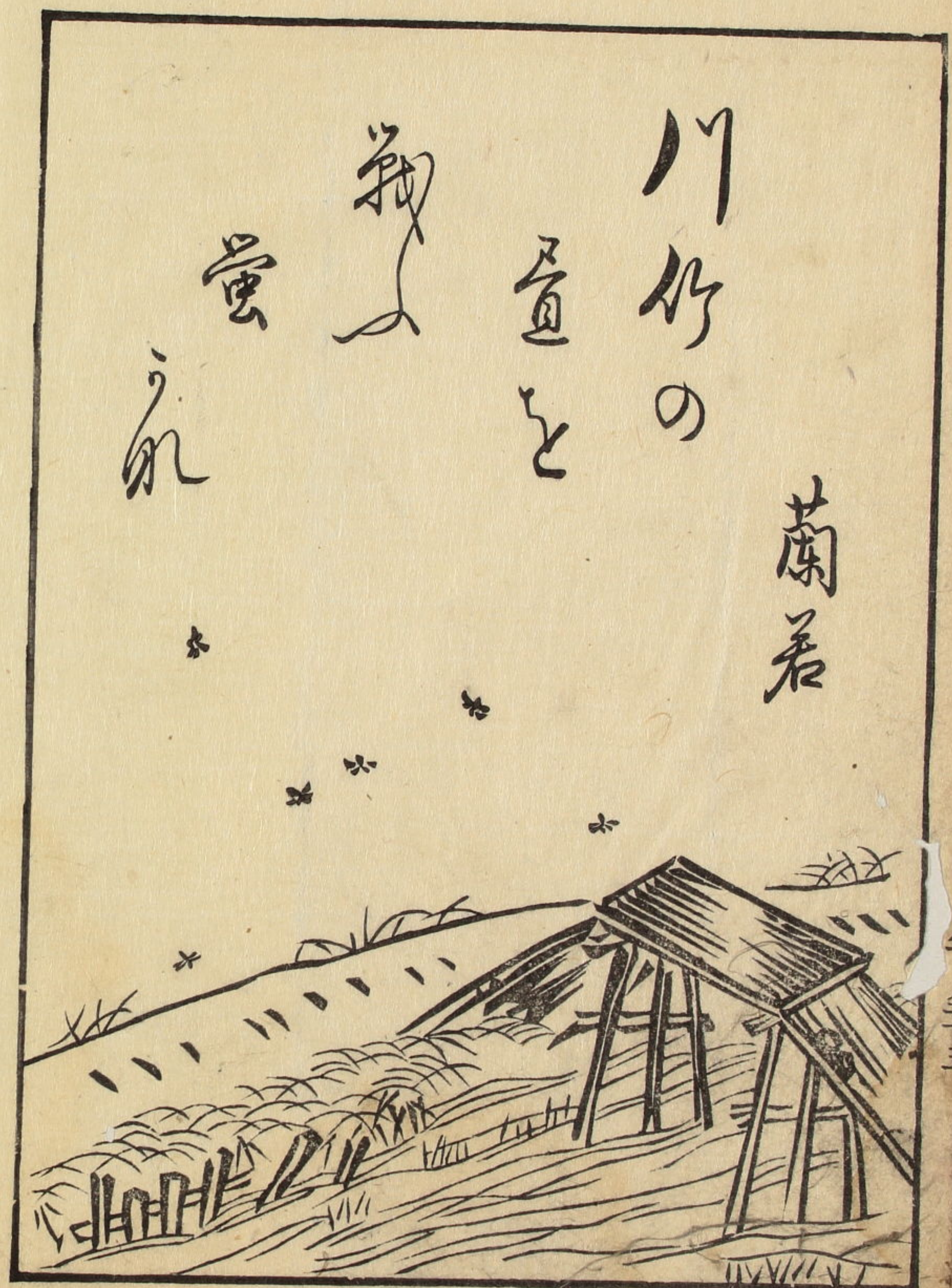
乳房と

おろし

辰う那

多鳥敵

金溪



川竹の

道と

翔し

螢

うね

蘭若





橋杭よ

風の  
さけらる

さくさく

淡州須本

指月

名月也

おぼて掃く

何け此鐘

淡州須本

雨山





清州改本

解雲度

初雪也

志々

小物也

乳也

離也



三十七

清州改本後工改

周陸

茄栗也

小神也

うん

丸裸



三十八





鳥

鳥

淡州福良

可候

東長谷川

源

鳥

東武目黒  
於恭叡山

此

不

一

深

淡州福良

花雷





世に周を

照氏

むらや

高菜の花

淡州福良外改

雲浦



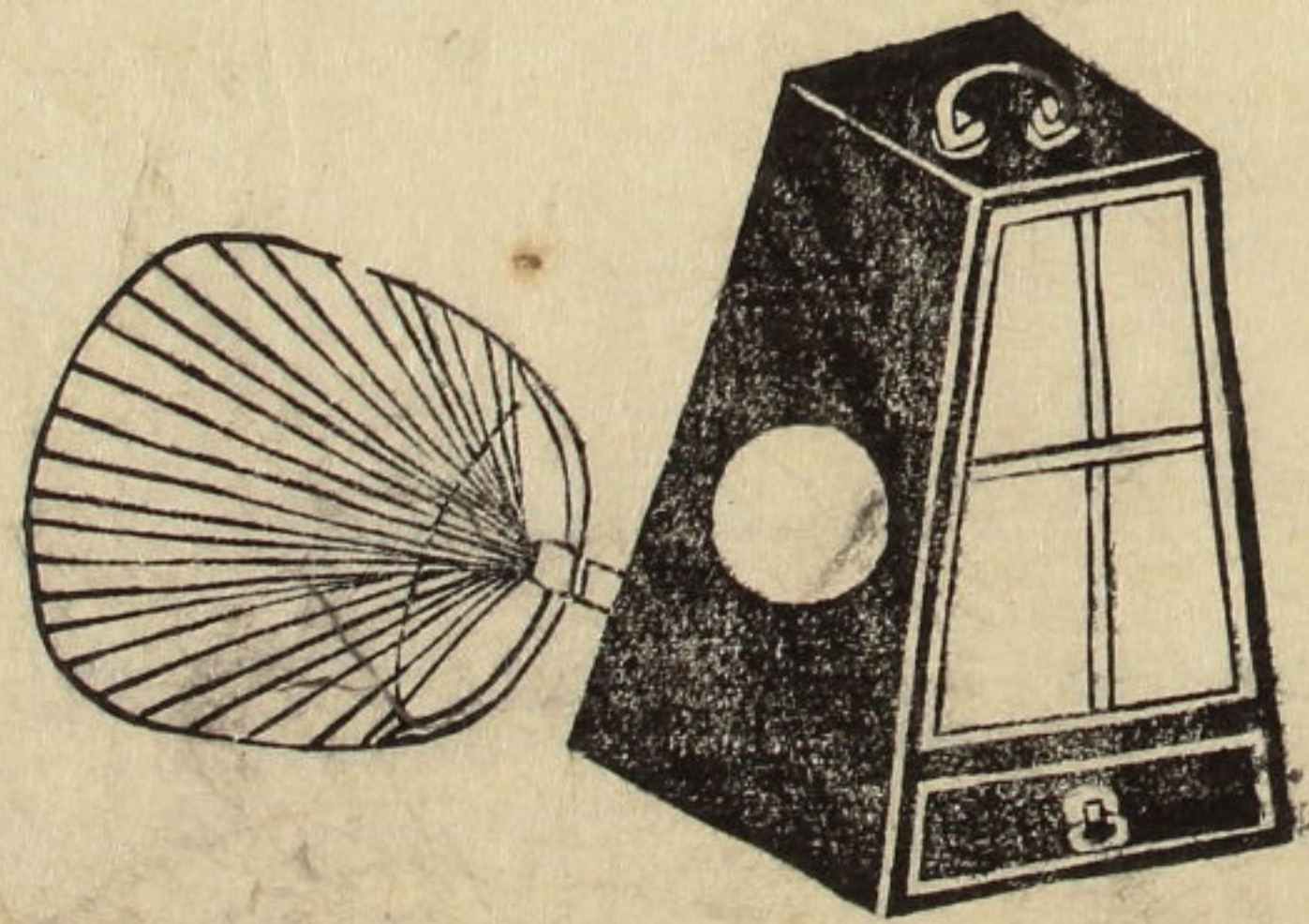
淡州福良  
芦仙

夕立よ

あしや

藤年北

水車









阿さかぢや

ま

東雲

あし

京

清洲福良本琴亭

蘭水



横之牛

好之

是乃

遠夜

うす



唐棠葉

子霞自画







澁州松帆浦  
瑞白校

子と

磨く

木織

子もふね

筆外



澁州七川  
春橋

澁州七川





松さかり也 湯初忌 初忌之 初 甫水

淡州松田

三十三



山寺此

室々々叩く也

納豆汁

白井收里

淡州三原郡松帆浦

三十三















あま

香也

あんの

えきふ

や

水仙花

露草



ヒワヒウリ

とらふし

あや

か



の路

應律





五月雨  
水よ  
か  
浪  
舟  
慶風



おととく  
なまらば  
おの  
圓  
舟  
和彌  
自負



織殿へ

牛毛

麻小

ゆく

今宵月之丸

西嶺中郎邑致雲舟

立櫛



十三夜

市書て室ハ

後此

月夜外 作菟阿丘





○

月此  
納涼の如  
西嶺大曲系  
千峰



明方ハ

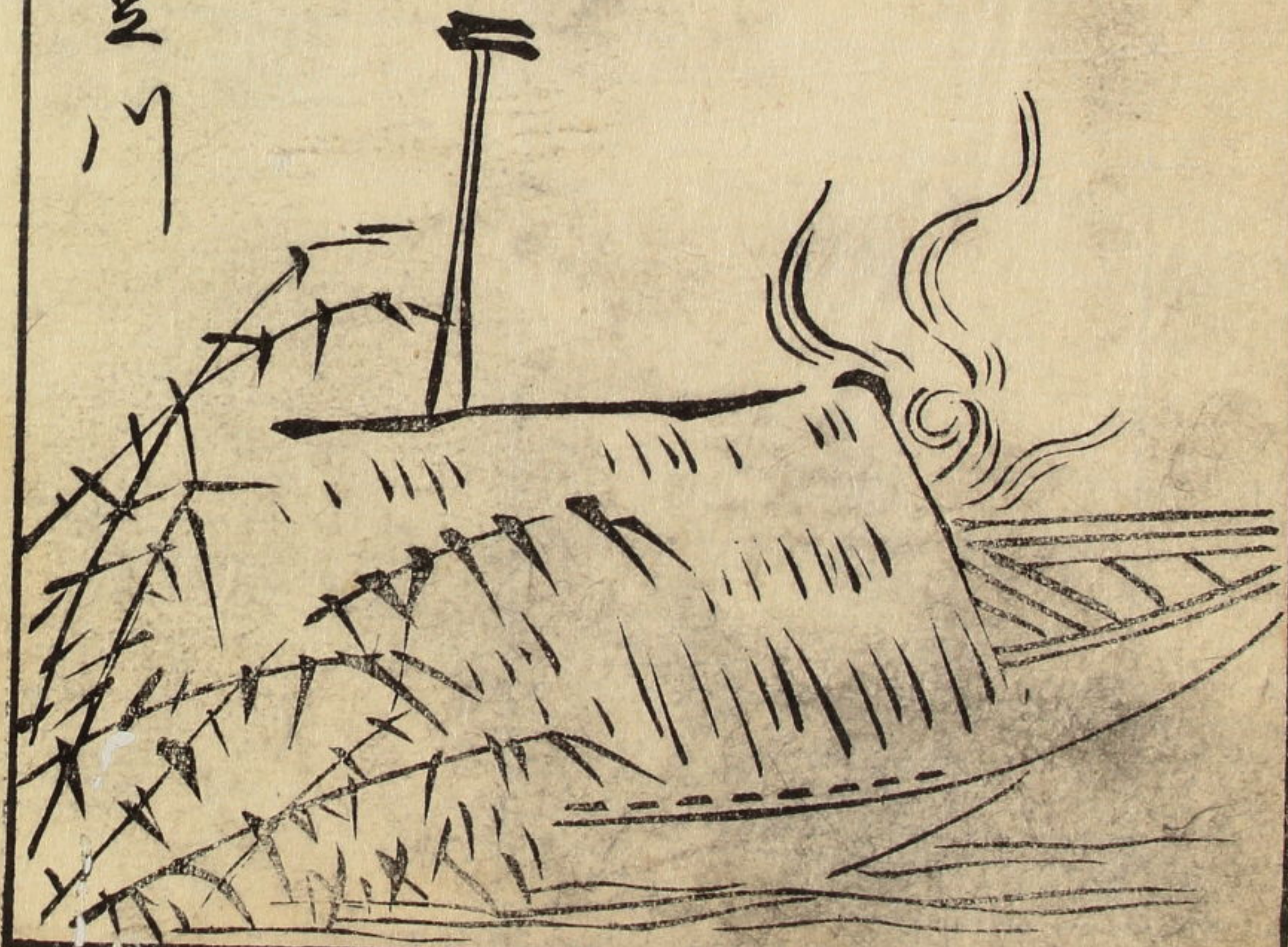
舟より

之居

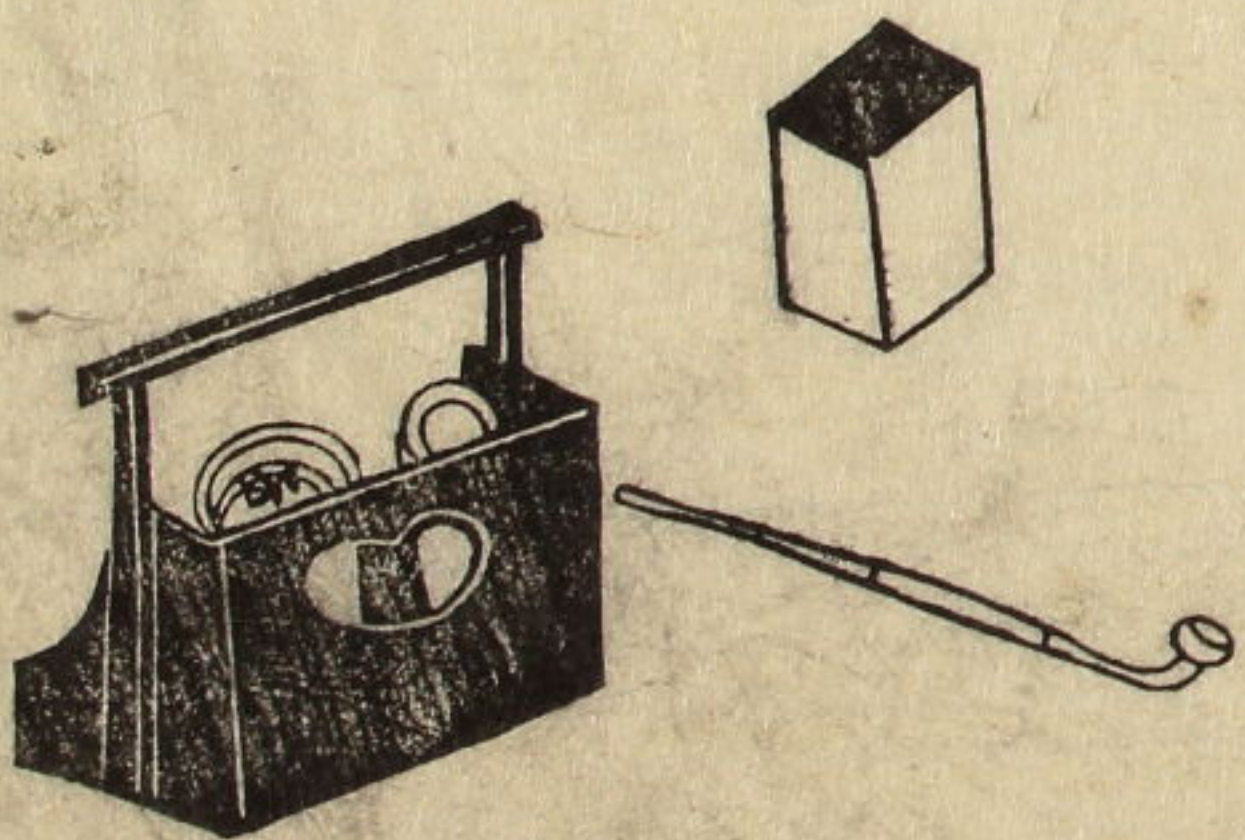
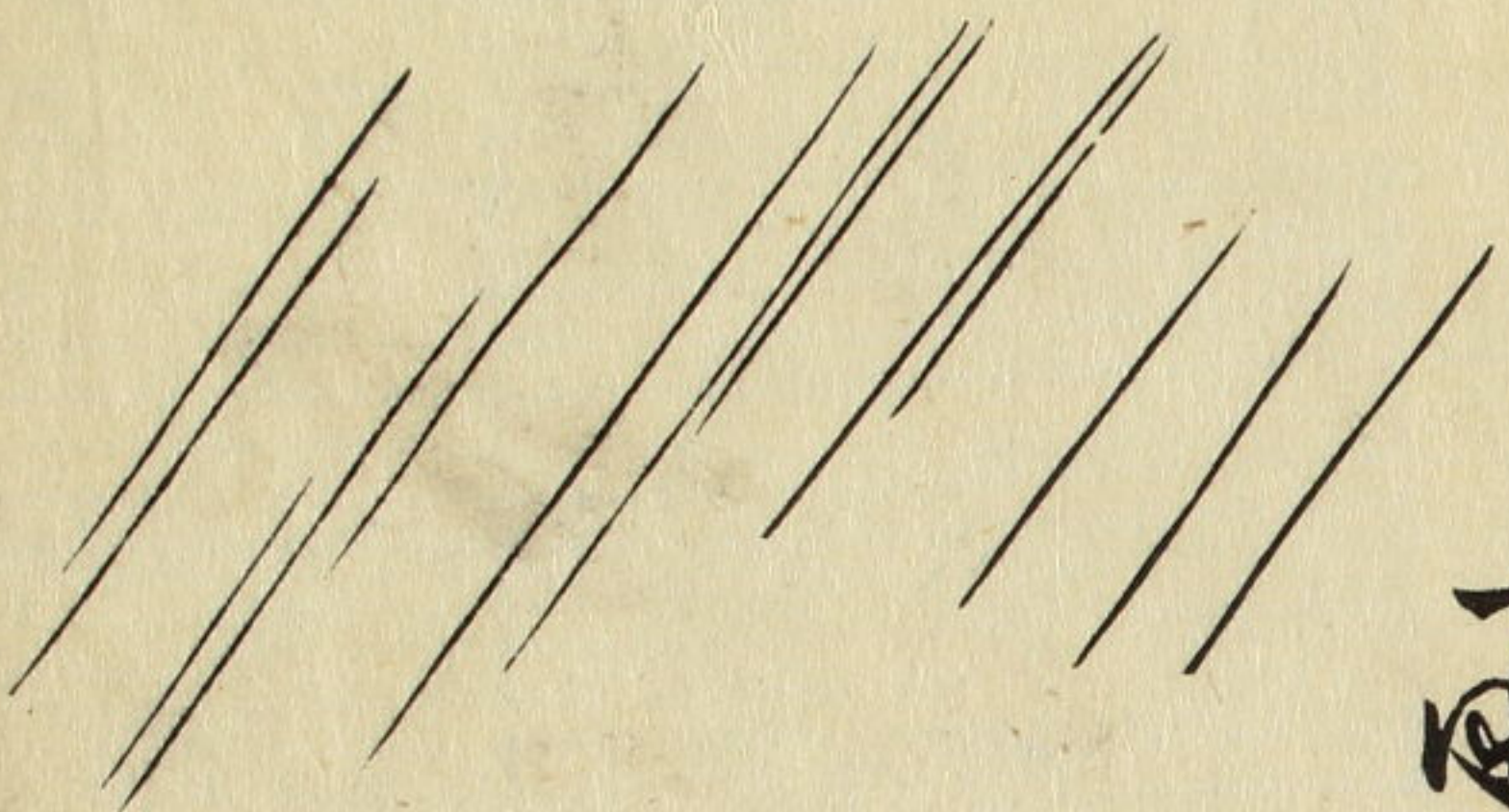
坂

西嶺中娘邑

豊川







海を守るや  
雨もその降る麻の巻

西嶽大野系花清園

千峰

若くは

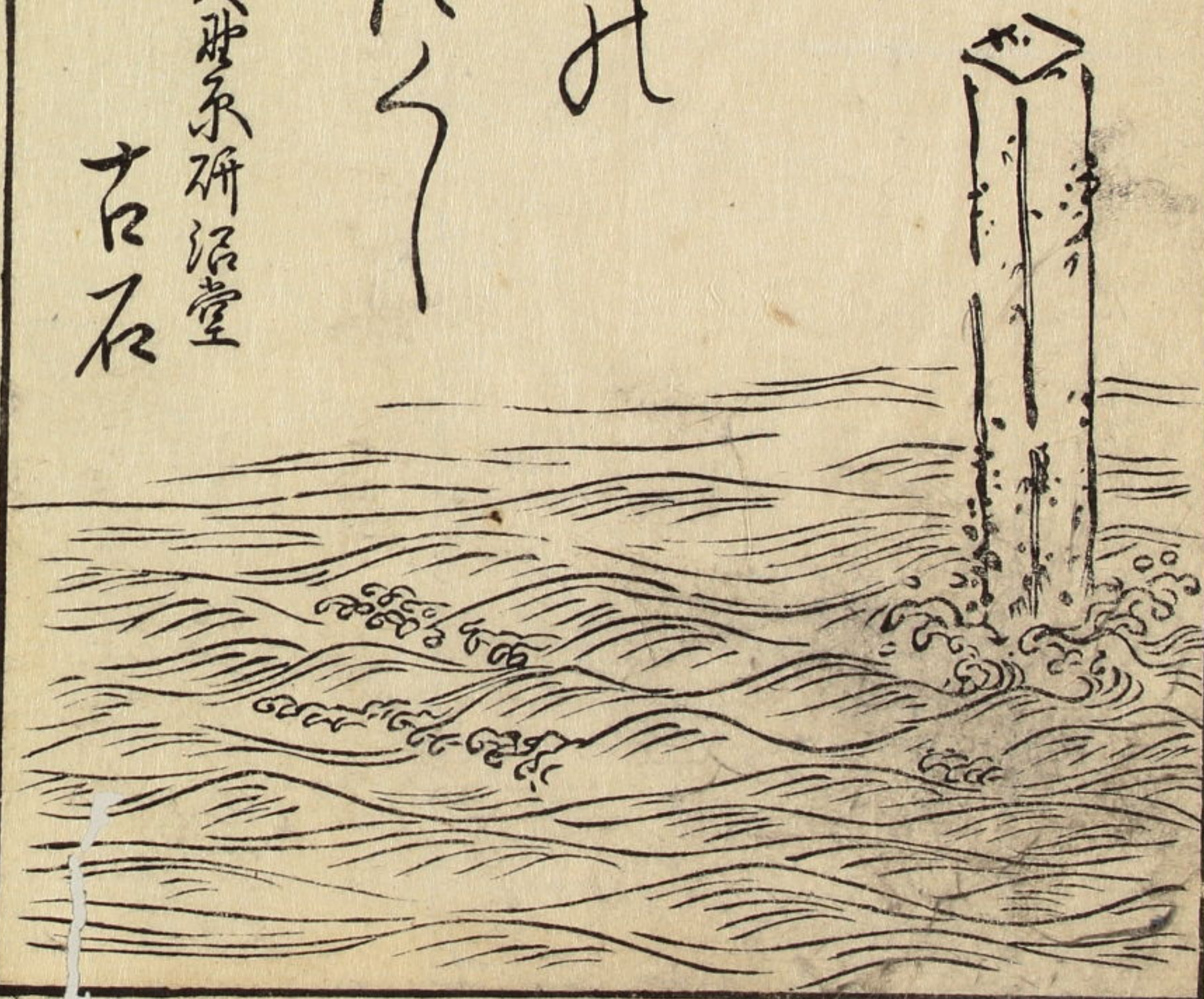
月

雲

みとけ

西嶽大野系研治堂

古石





端午

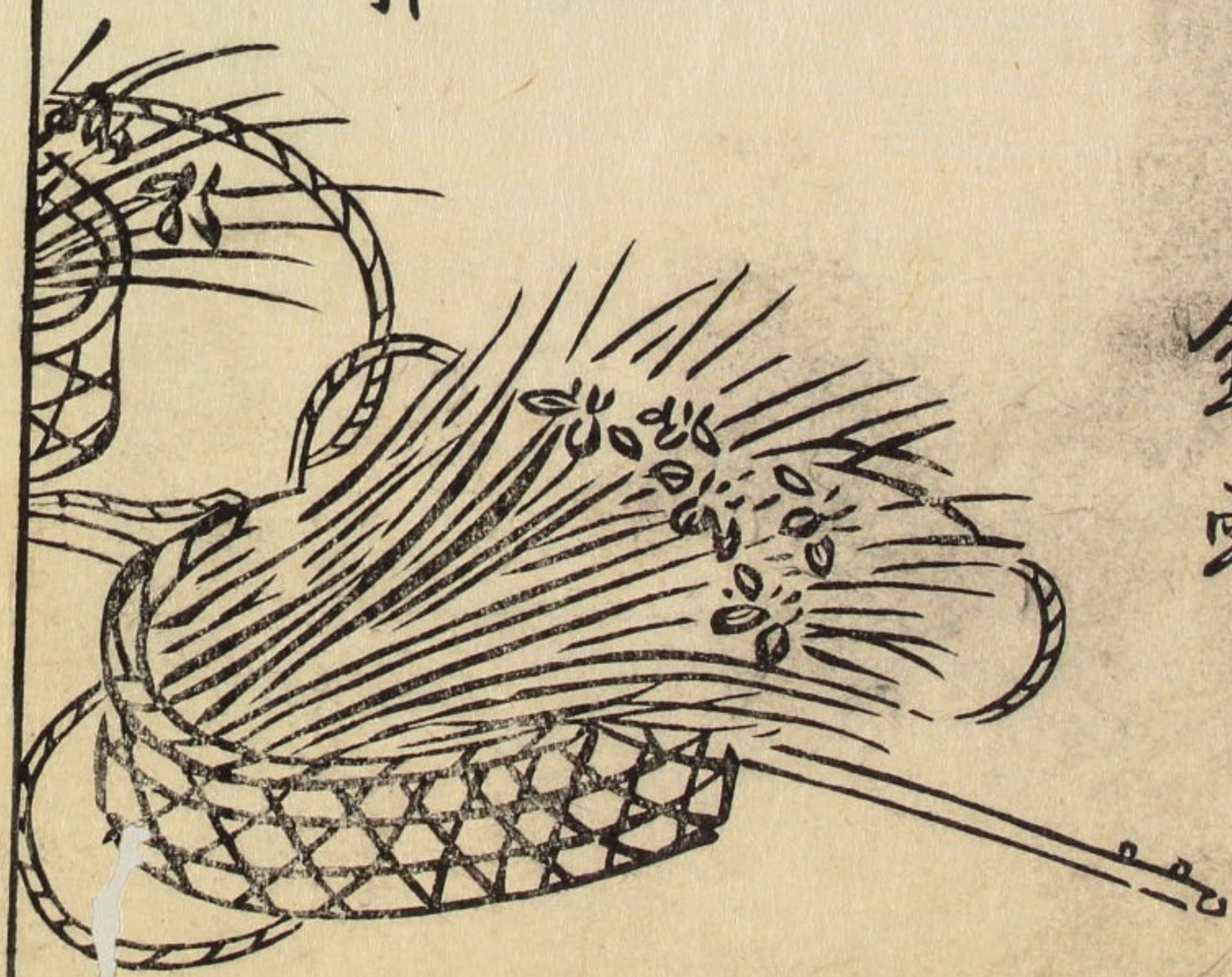
菖月まのよ

栞とら

まろ〜ぬ

昔蒲  
か

傘栗



猫意

素流

叫のおと

まげふや

猫のまゝ





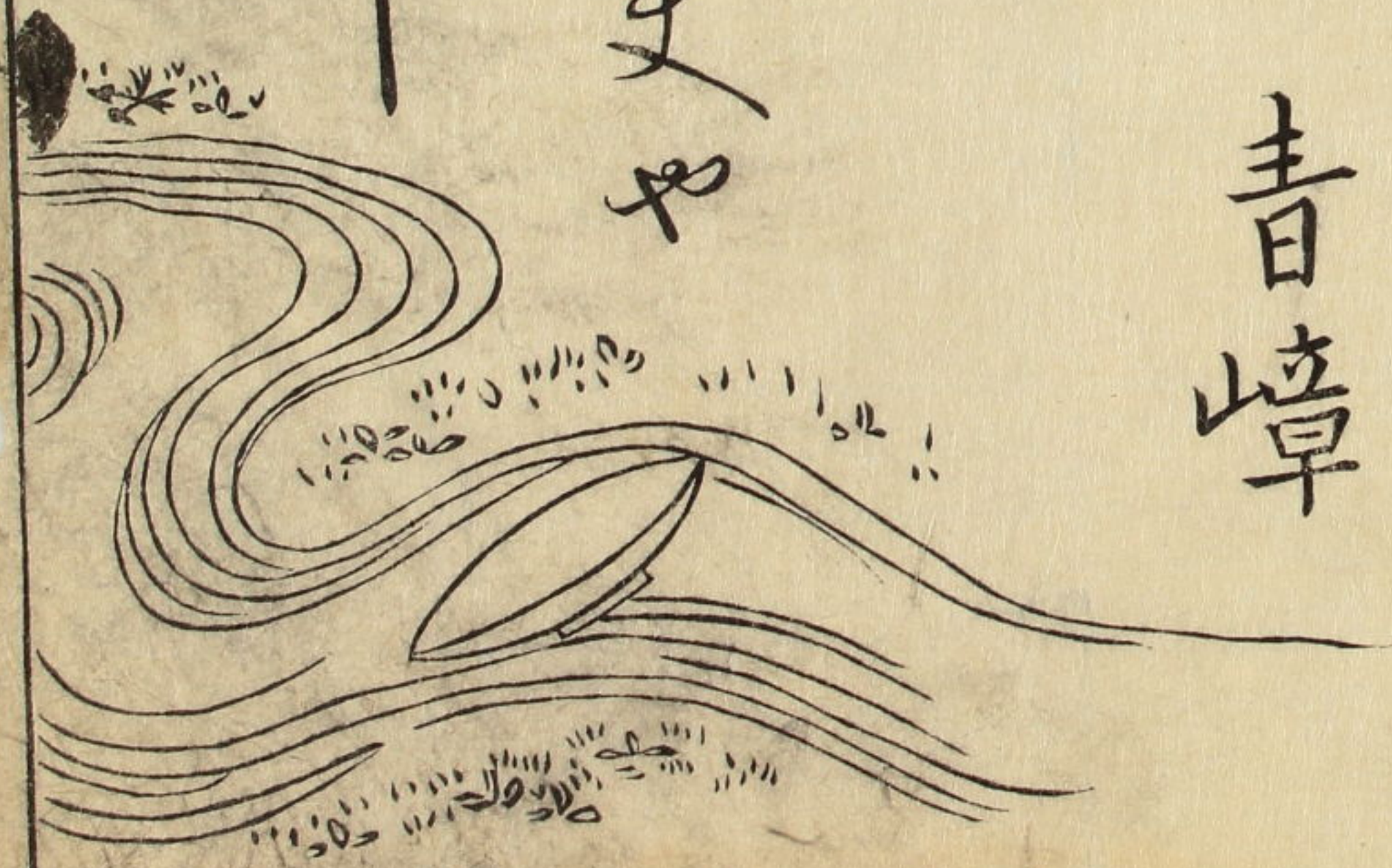
枇杷

雛  
雛  
如  
也

手  
ぬ

桃  
節

青  
嶂



上  
下  
日

難波屋の

傘よきなり

霞の那

李橋



上  
下  
日





森鴉人之怪と伸とる挿引

山崎亭

路栓



山崎亭

山崎亭の怪と伸とる挿引

路栓





一抱

舟も

初子

子

浪巻

巻









元日や清小八持るぬ持持守

河内佐太琴川段

代美山空

鯉天



かなふ恋

雨よ

あゝれ糸

岸の藤

南都

慶敷

一十四七









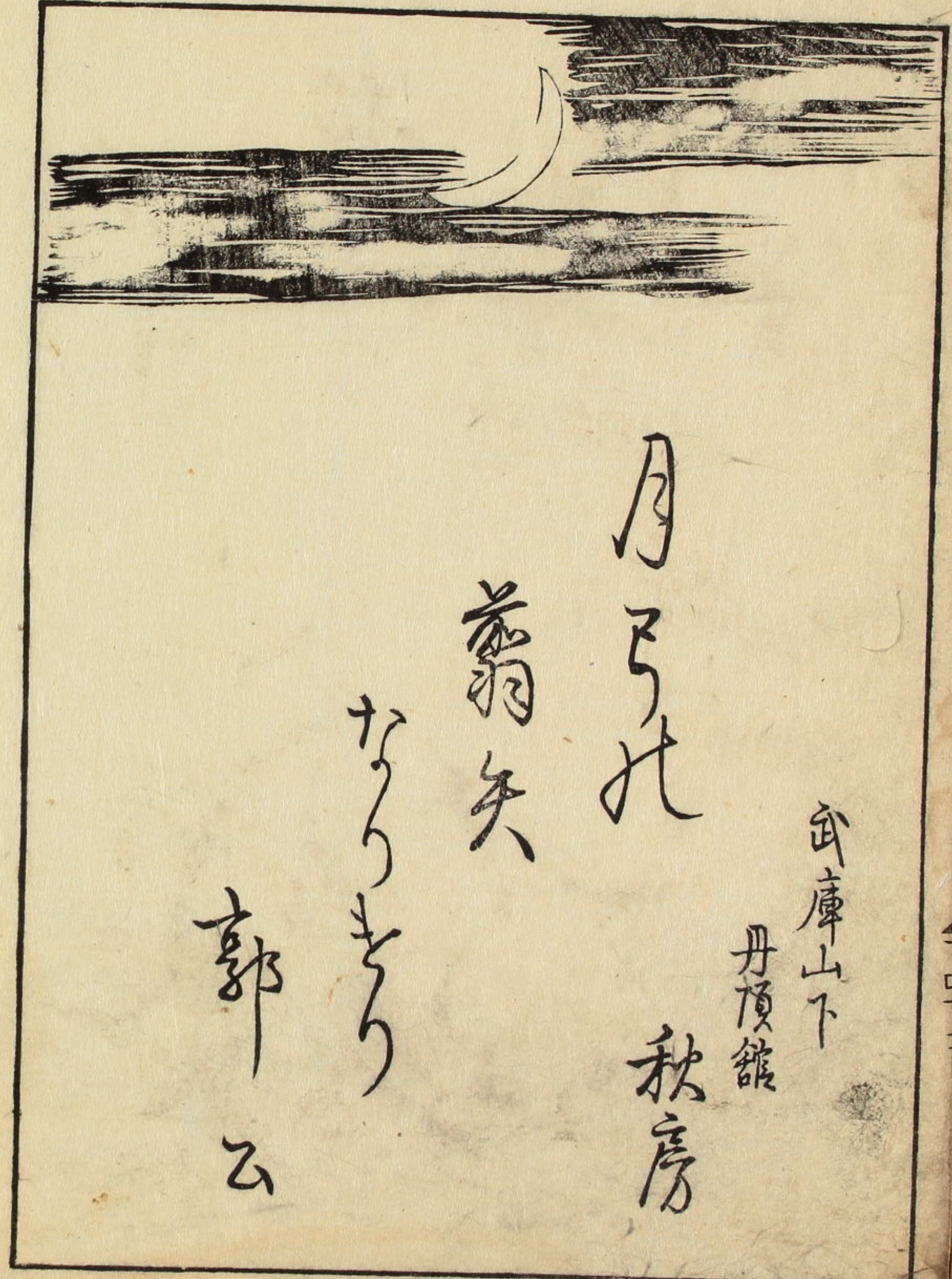
枯草也

蓬草守れ

神

懐

池の魚



月弓れ

箭矢

たうりきり

郭  
乙

武庫山下

丹頂館

秋房



妻待也

稻葉子

此

夕化

西宮

都牛



細引ハ

昔此

西宮

仙橋

女

也

上

月

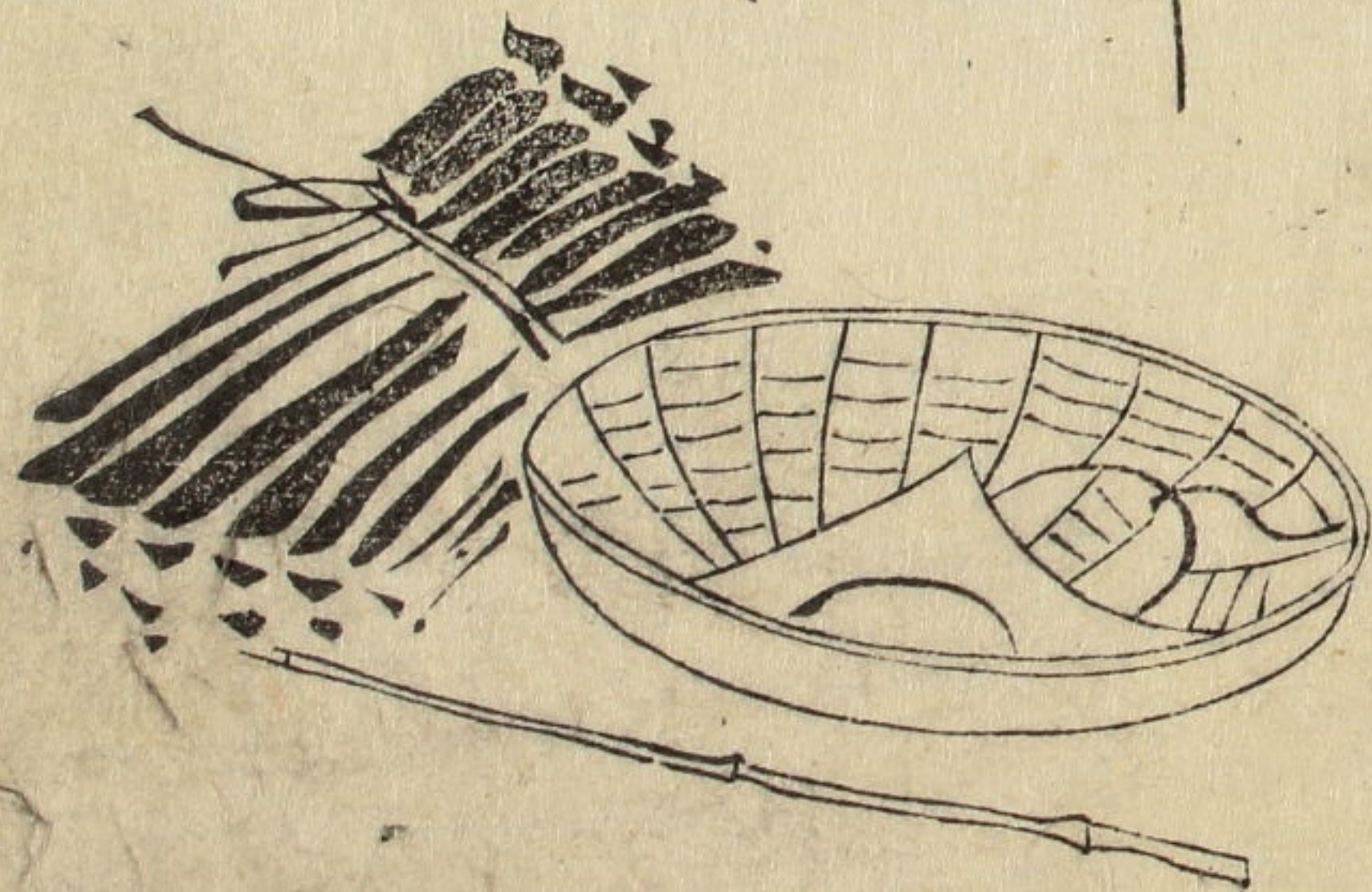
干



小原女を

笠  
吹

冬ふゆ



佳良月画

上

船新や

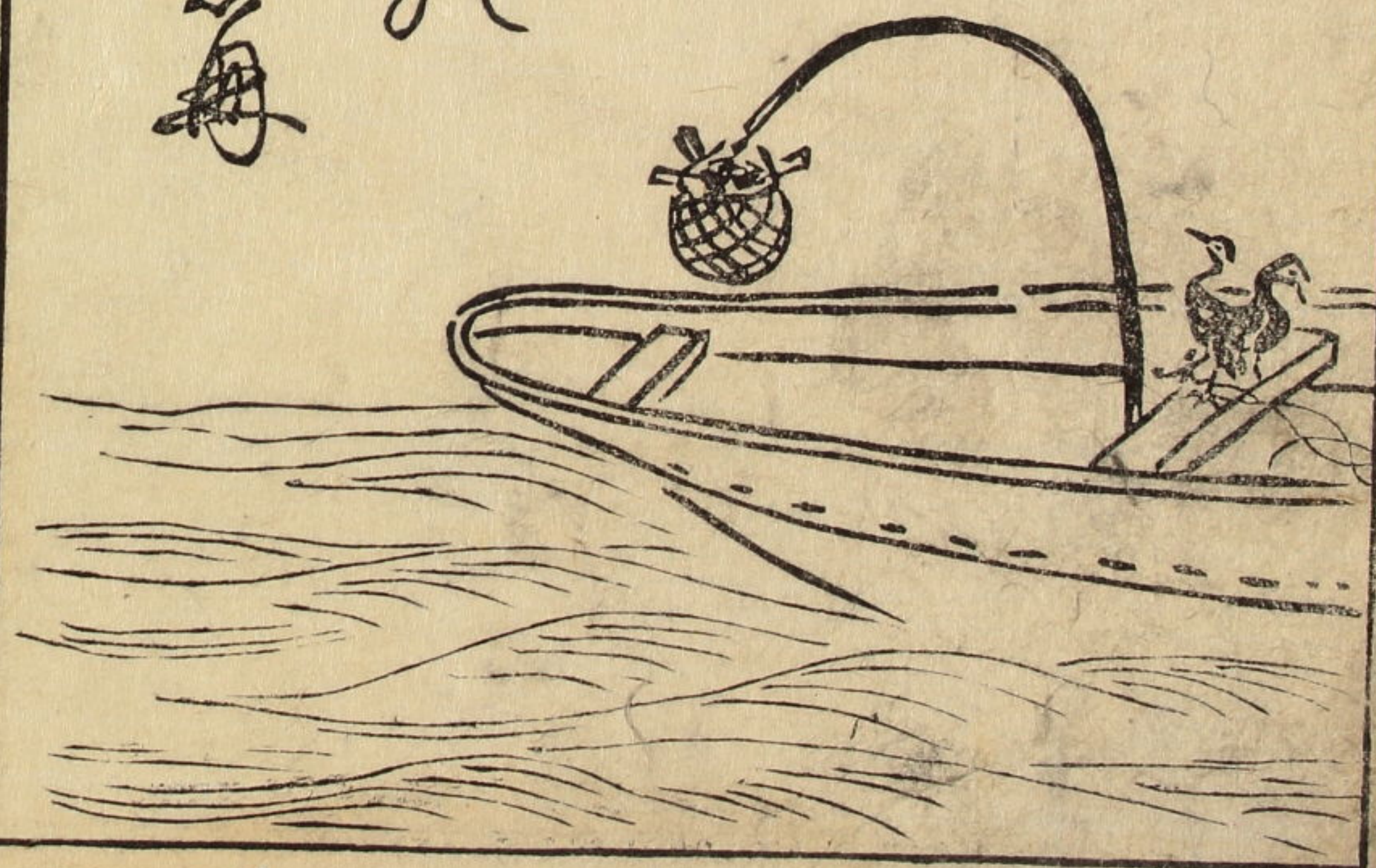
美濃の

川邊に

明海

西宮林鳥段

布積







竹一花

竹一花

深木

此

落葉外

西宮五笑軒

漁翁



少年

鳳丘画

西宮魚住

秀乃麻

致孝り火也

煙八周へ山は合





恒家  
 仲乃菴  
 乃菴

西宮熾也



戸袋  
 泉之川也  
 深之丸

西宮

一口

下五十三





枯風

撥と落しとふ

曲右鼓

徳野本元半歌舎

子周

下巻五



初秋やみづ

ゑんてたまの

舟出人

美波自田

下巻四





梅咲や棠ハ 故光  
 二階の書院先

梅

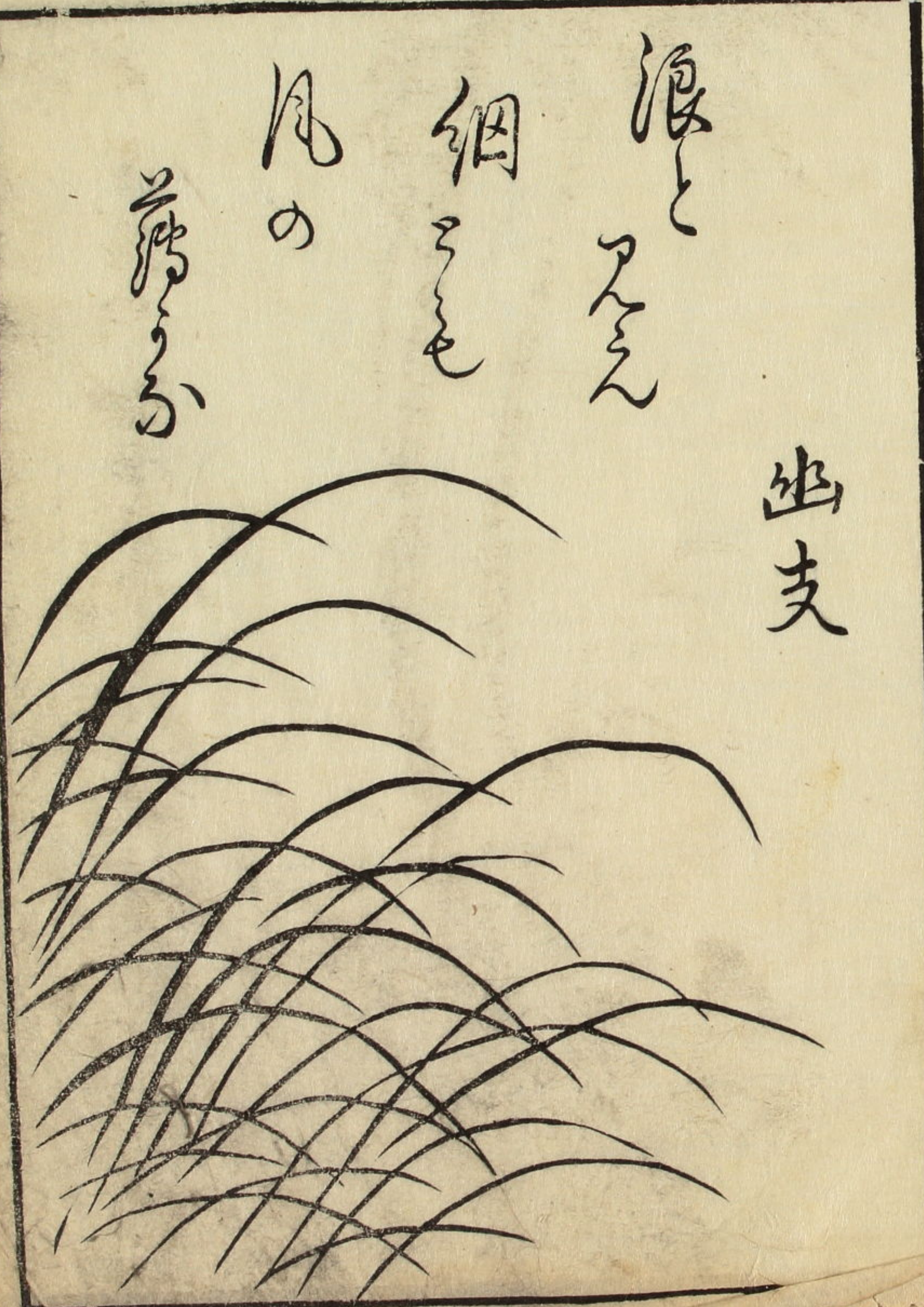


明き山や  
 報 小ハ  
 桃 花  
 花のよき

市月洞  
 其然

梅





浪と  
細  
月の

幽支



うら  
枯や  
出雲  
りり  
れ  
荷  
搦え  
百  
杆



眼  
えいりふ  
ほろみ  
張  
せし  
寒  
さか

布水



まなげちや  
さくも花を  
やれしやま

交瓦

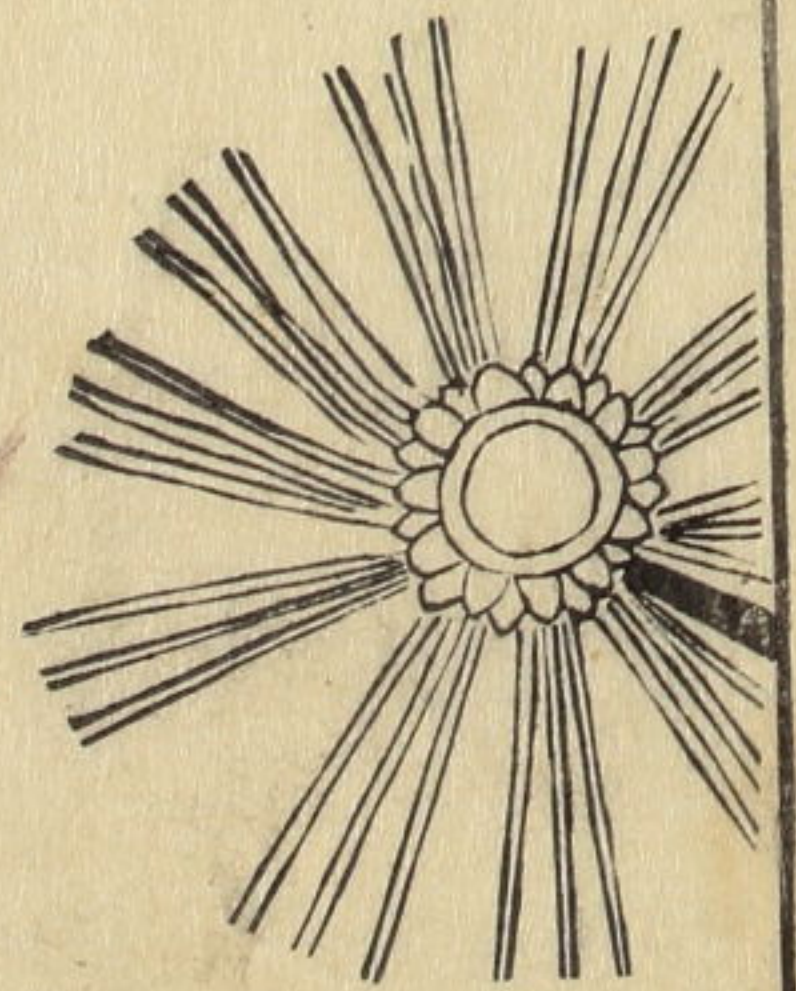


下五拾七



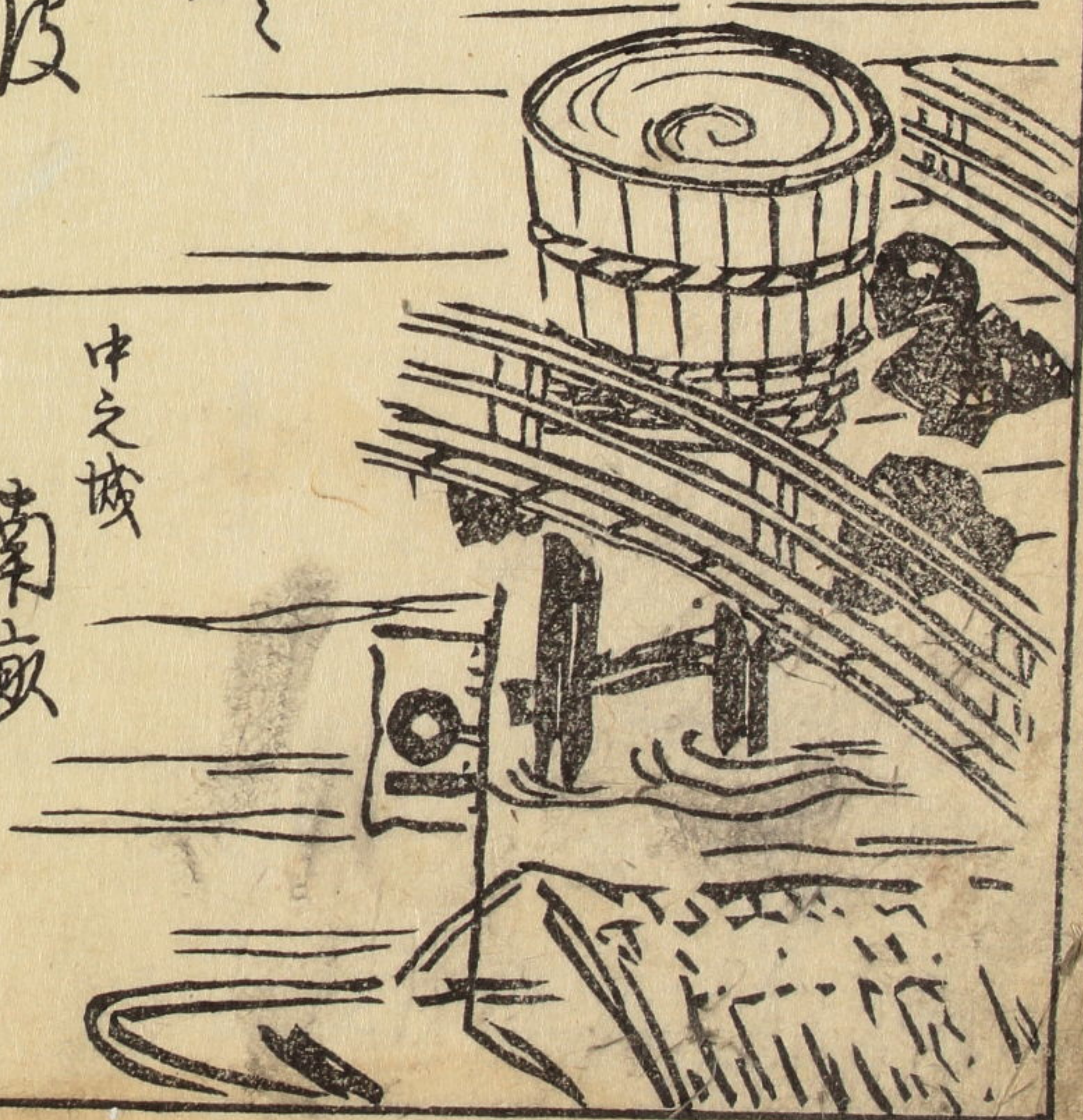
世の人れ  
 惚々  
 練  
 供書  
 松や

船川  
 文扇



流新  
 何尔の  
 異々  
 瓜れ皮

中之城  
 南畝











初雪也

春は是の見ゆり

江別海津如景段

如泉



思ふ

牛

なつ

けり

錦

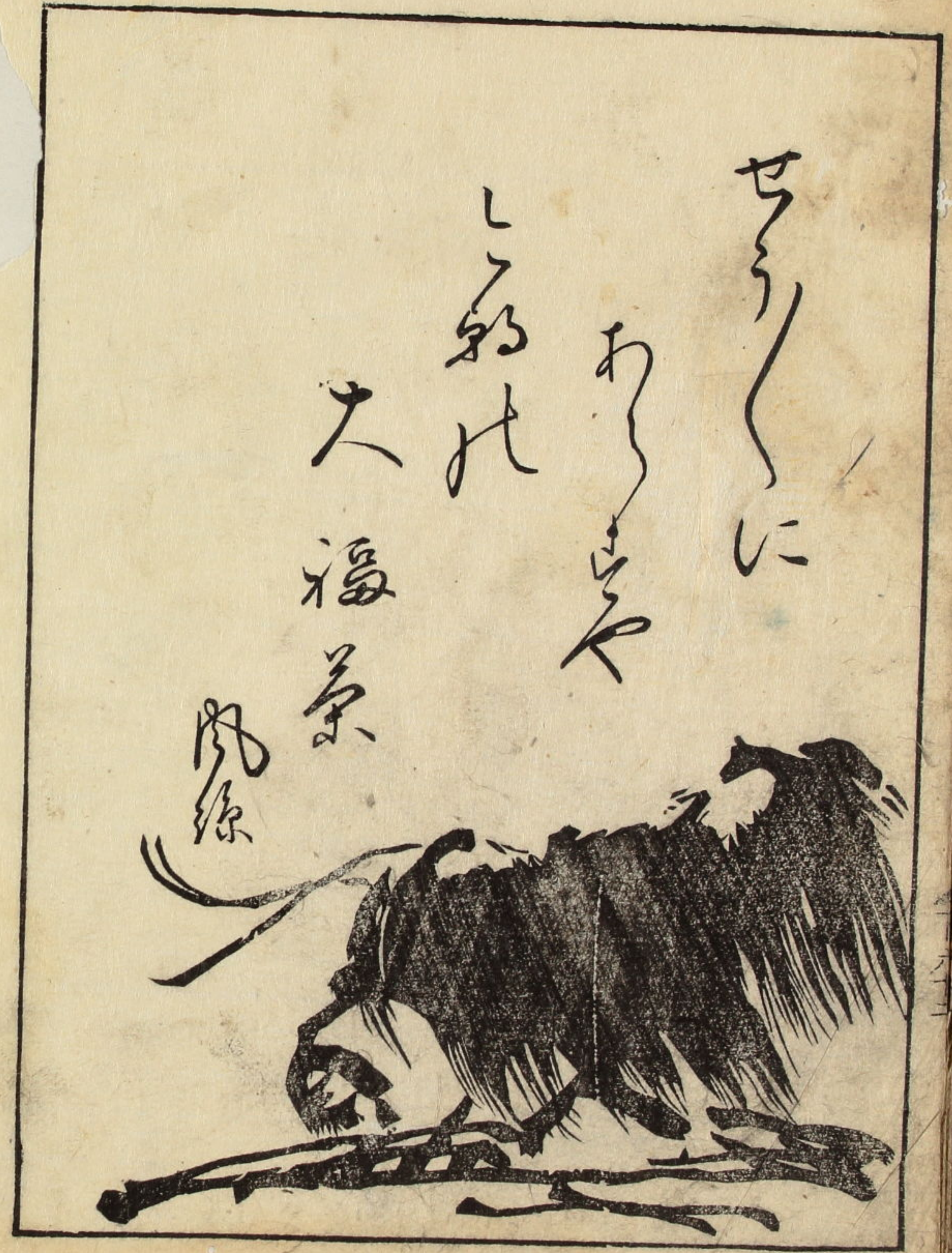
江別海津

一枝











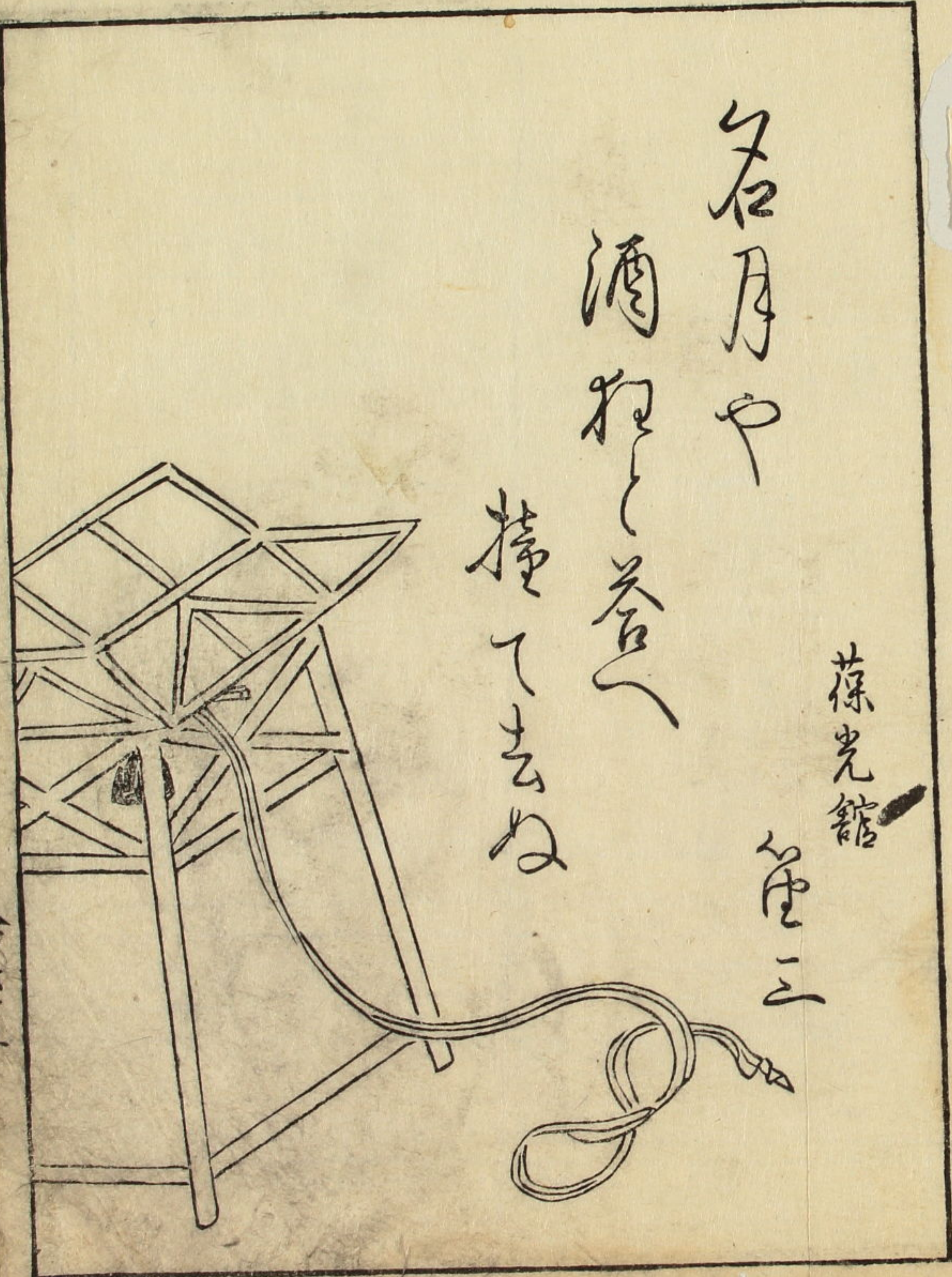
水底へ  
 届く  
 鴨の足  
 雙魚画



か  
 浪波れ  
 風の音

植沖





名月也

酒杯と茶

持て去ぬ

葆光館

巻三



通

照

撥

〜

去旭如





溝中  
 安んずる  
 桜の  
 続  
 河津

方繁



遠慮  
 目明  
 時  
 志之流

不許葦酒入山門

豊後日出

路鳥考



藉鞭之餘 菑萸揭車於草 榎  
 楠豫章於木 形殊而色異也  
 非品非圖 則何以瞭臭味於  
 指掌之間 擇而不精 語而不  
 詳 則安在子品之圖之也 諧  
 之爲道也 尚矣 作者往々流  
 徵刻羽形 殊而色異也 不啻

仲殊

清光



名月や新

おまひ

むーの

婆東

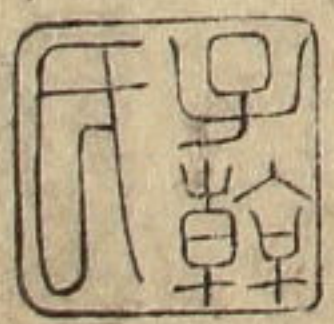


若蓄英揭車榘楠豫章於草  
木而已歆驅諸一赭鞭其難  
哉其然氏雄于諧者也嘗摘  
諸家之英疏之品繫之圖能  
精且詳勒爲一編問名於所  
謂師者師曰赭鞭以臨哉既  
己名之亦冠之以言波及予

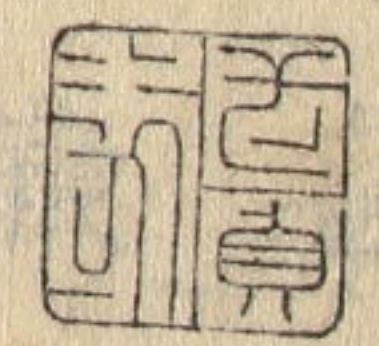
予曰我也不敏於諧寧贅乎  
將冗乎其何言之有

蜜曆丁丑冬

武田宴山識







法田宴山齋

諸富者下田冬

精且謀勤為一編問名於所  
染巧外其危言以成  
子曰汝力不敏汝齋寧贊乎

法田宴山齋  
書於



